

家庭ごみ収集・処分の最適化に関するサウンディング型市場調査の結果について

1. 調査の趣旨

本市では、ごみの減量化や3Rの推進により、環境負荷の少ないまちづくりを進めており、家庭ごみに含まれる『資源』を最大限に有効利用する方法について検討を進めるため、『奈良市の家庭ごみの減量化とごみ処理事業のコスト縮減』をテーマに、サウンディング型市場調査を実施しました。

2. 調査のスケジュール

幅広い事業者から提案を受けられるよう、奈良市ホームページにて要領を公表し、以下のスケジュールで調査を行いました。

日程	内容
令和7年1月29日(水)	実施要領の公表
令和7年1月29日(水)～2月14日(金)	参加申込書 受付期間
令和7年2月19日(水)～2月21日(金)	対話の実施(WEB・対面)

3. 参加事業者について

受付期間中に以下の7社から参加申し込みがありました。

業種	リユース・リサイクル業	廃棄物処理業	合計
参加者数	3者	4者	7者

4. サウンディング調査の内容について

テーマに基づき、以下の事項について参加事業者と対話を行いました。

- (1) 大型ごみ収集業務の委託について
- (2) 小型家電製品リサイクルの促進について
- (3) ごみの減量化やごみ処理コストの縮減に繋がるご提案について
- (4) 取組事例などの情報について

5. 今後の方針について

調査の結果から、以下のような事業の実施について検討を進めてまいります。

① 「市民が気軽にリユースできる場所」をつくります

ご家庭の「まだ使える不用品」(家具・衣類・雑貨など)を、市民が気軽にリユースできる施設を開設し、ごみの減量化を図ります。

② 「イベントによるリユースの啓発」を行います

リユースやリサイクルについて関心を高めていただけるよう、市内の商業施設等で啓発イベントを開催します。

資料：事業者からいただいたご意見の概要

各事項について、参加事業者からいただいた主なご意見は以下のとおりです。

(1) 大型ごみ収集業務の委託について

検討事項

リユースやリサイクルによって得られる売却額を受託者の収入とすることで、大型ごみの収集作業を安価で業務委託することができないか。

得られた意見

- ・ 収集している不用品の中にリユース（売却）ができる物品はほとんど見られない。
- ・ リユースやリサイクルは選別や再商品化の作業に多くの人手（人件費）がかかる。
- ・ 鉄製品などのリサイクルは、取引価格の変動が大きく、安定した収入と見込むことが難しい。
- ・ 大型ごみなどをリユースする場合は、排出者（市民）の了承を得る必要がある。
- ・ リユース品を収集するのであれば、現在（収集車で圧縮）と別の方法で収集する必要がある。

(2) 小型家電製品リサイクルの促進について

検討事項

本市では公共施設等に小型家電製品回収ボックスを設置し、リサイクルを進めているが、回収量が少ないため改善案についてご提案をいただきたい。

得られた意見

- ・ 市民の認知度が低いと思われる。設置施設を増やすとともに、啓発に取り組む必要がある。
- ・ 近年の電子機器はレアメタルの使用量が減少しており、有価取引できる製品は減少している。
- ・ 回収したごみから対象製品を選別するには非常に多くの人手が必要になる。

(3) ごみの減量化やごみ処理コストの縮減に繋がるご提案について

検討事項

企業と市が連携・協働することで、ごみの減量化等に繋がるご提案をお聞かせください。

得られた意見

■企業との連携・協働事業のご提案

- ・ 「有価性は低いがまだ使えるもの」を、市民が気軽にリユースできる施設を設置する。
- ・ 商業施設等で不用品の買取イベントを行い、市民のリユースへの関心を高める。

■本市のごみ処理等の施策に対するご提案

- ・ 環境清美工場への持込ごみのうち、まだ使えるものを保管し、事業者を通じてリユースを行う。
- ・ ごみ減量を促進するため、家庭ごみの収集を有料化する。
- ・ 市民や市内の企業と市が連携してごみの減量化に取り組む場を設ける。

(4) 取組事例などの情報について

検討事項

企業や他自治体が実施している事業の事例などの情報をお聞かせください。

得られた意見

- ・ 自治体のごみ処理施設について、複数の市町村による共同設置や、一般廃棄物と産業廃棄物